

(株)富士通ゼネラル

製品種類: エアコン

機種名: AS-W283N

販売年度: 2023年



評価項目(アセスメント評価項目)

番号	取組項目	説明
1	減量化・減容化	
2	再生資源・再生部品の使用	
3	包装	
4	製造段階における環境負荷低減	
5	輸送の容易化	
6	使用段階における省エネ・省資源等	✓
7	長期使用の促進	✓
8	収集・運搬の容易化	
9	再資源化等の可能性の向上	✓
10	手解体・分別処理の容易化	
11	破碎・選別処理の容易化	
12	環境保全性	✓
13	安全性	
14	情報の提供	
15	LCA (ライフサイクルアセスメント)	

製品アセスメントの概要

2022年に設定された新省エネ基準に対応するため、冷媒回路の見直しなどにより省エネ性能を向上させた。また、室内機パネルカバー一部の構造変更により、分解性・分別性を向上することで再資源化の可能性を向上させた。

改善の具体的内容

[] 中の数字は関連する評価項目の番号です。

1. 使用段階における省エネ・省資源等 [6]

【新規】

室内機熱交換器冷媒回路と運転制御定数の見直しにより省エネ性能を向上させ、**年間エネルギー消費効率 (APF) 6.6 (JIS C 9612:2013) 省エネ基準達成率 100 % (目標年度2027年度) を達成。**

* 比較機種名: AS-M282M 年間エネルギー消費効率 (APF) 6.5 (JIS C 9612:2013)

2. 長期使用の促進 [7]

冷房・除湿運転時に発生する水滴が、抗菌・防カビコーティングを施した「ハイドロフィリック熱交換器」の汚れを浮かせて自動洗浄。

さらに、冷房・除湿運転後、洗い流した水分を55℃以上に加熱してカビ菌や細菌を除菌。

また、送風路・風向板に防カビ効果のある素材を採用し、カビの繁殖を抑制。

お手入れが難しいエアコン内部を清潔に保ち、長期使用を促進。

3. 再資源化等の可能性の向上 [9]

【新規】

従来機種では赤外線透過性を有する部品（以下センサーカバーと呼称）と製品外郭部品を両面テープで固定する構造としていたが、新機種ではセンサーカバーを固定ブラケット部品で爪固定する構造に変更。

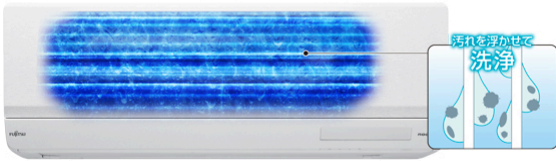
本構造変更により、分解性・分別性（除去が困難な両面テープを使わない）が向上し、再資源化の可能性向上に配慮。

4. 環境保全性 [12]

J-Mossに対応。

ハイドロフィリック熱交換器 (抗菌・防カビ※コーティング)

防カビ性に優れた抗菌・防カビコーティングを熱交換器に施し、カビの繁殖を抑えます。



※【試験機関名】(一財)京都府立生物研究所【試験方法】培養試験(JIS Z 2801)による。防カビ試験はJIS Z 2911による。【試験結果】抗菌・抗真菌活性99%以上、防カビ防カビ効果あり。【試験番号】1394_8155。ホコリや油汚れの多い環境でのご利用時には、熱交換器のクリーニングが必要となる場合があります。

ハイドロフィリック熱交換器

熱交換器加熱除菌※

エアコンでカビのリスクにさらされやすい内部の熱交換器。冷房や除湿の運転時に発生したカビが増える原因となる水滴を、メクリアは熱交換器の中で熱してお湯に。熱いお湯の方でカビ菌・細菌を除去して、カビの繁殖を抑えます。

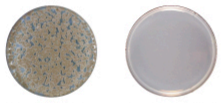


※ AS 2022Nにおいて、【試験方法】熱安定性試験(10時間)において、加熱除湿運転時と他の比較、10時間や経過99%以上、カビ菌99%以上の減少を確認(培養1種、カビ菌1種で評価)【試験機関名】(一財)北里環境科学センター(報告書No.)北生発2017_0370号、熱交換器の一部の脱落を回収し評価、動作確認により効果低下する場合があります。また、ニオイや汚れを除去する機能ではありません。

熱交換器加熱除菌

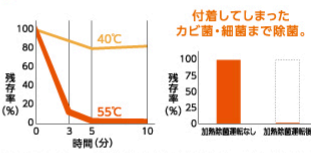
カビ菌(クロカビ)

カビ菌を“除菌”しているため、熱交換器加熱除菌をしない場合に比べてカビ菌の繁殖も抑制します。



加熱除菌運転なし 加熱除菌運転あり
試験機関名:(一財)北里環境科学センター
報告書No:北生発2017_0370号 加熱除菌運転後99%以上のカビ菌に対する効果
*実機にて試験を実施。

細菌



試験機関名:(一財)北里環境科学センター 報告書No:北生発2016_0361号 細菌の懸濁液を40℃・55℃にそれぞれ加熱をし10分経過した後の菌数を比較
*実機での検証ではありません。

加熱除菌の効果